

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 京都市立下京渉成小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒600-8145 京都市下京区皆山町 438 番地-1
E-mail shosei-s@edu.city.kyoto.jp
Website http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=104050
幼児児童生徒数 男子 122 名 女子 126 名 合計 248 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「社会に貢献する子どもの育成」を学校理念として、ESD を他者とのより良い共生を目指すことと捉え、ESD の実践を通して社会に目を向け、社会の中の自分の立ち位置を知り、実際に行動できる力の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、食育、人権教育を柱に、①地域の自然に係わる活動、②給食や京野菜に係わる指導、③人権に係わる学習を行った。

① 地域の自然に係わる活動

本校校区に流れる高瀬川を題材にして、高瀬川の水質や生態系を実際に現地に行き調査したり、高瀬川の環境保全に取り組む方たちから高瀬川を守る活動についてお話を聞き一緒にその活動に取り組む。また、高瀬川の歴史から、高瀬川がその水運を活かして様々な物資を運んできたことが、現在の本校校区の地名や文化に息づいていることを学び、次の単元である食育、「京都の和菓子」の学習へと発展していった。

また、南部まち美化事務所の協力を得て、地域の清掃活動にも取り組んだ。

② 食育に係わる教育

本校は、開校以来食育に力を入れてきているが、3年生では「旬の野菜」を、4年生では「京都の和菓子」を、そして5年生では「京野菜」を題材にして総合的な学習の時間において探究活動を進めてきた。それぞれその歴史や特徴を調べ、実際に育てたり調理したりして体験し、学んだことはポスターセッションやスピーチ等で地域の方や保護者に向けて広く発表を行った。また、日々の給食も重要な食育の学びの題材とし、行事食や食材についてなど、毎日ポイントを絞って指導してきている。その結果、子どもたちは給食を大変楽しみにし、開校以来残菜が出たことはない。

③ 人権に係わる学習

毎月「なかまの日」という人権について考える日を設定し、同和問題や障害者問題、男女平等に関わる問題やいじめについてなど、違いを認め合いよりよく共生していくための学習を行ってきている。また、10月には各学級において人権目標を考え、12月まで取り組んだ成果を人権集会の場において発表する機会も設けている。

① 地域の自然に係る活動の様子



高瀬川の水質調査



値域の清掃活動

② 食育に係る活動の様子



自分たちで調べた京野菜を育て



オリジナルレシピで調理



完成したものは京焼きの器に



地域の方を招いて試食会で調べたことを発表

④ 人権に係わる活動の様子

月1時間、「なかまの日」の時間を設け、違いを認め合い共に共生していくことの大切さを考える時間の様子



朝鮮の楽器に挑戦



世界の料理を知る



人権学習「ちがいのちがい」



人権朝会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>○食育推進：3年生「旬の野菜」、4年生「京菓子」、5年生「京野菜」、6年生「おもてなし」をテーマに「総合的な学習の時間」の大単元として位置づけ探究学習を進めている。また、日々の給食指導も大きな柱と位置付け、素材や調理法など、日々学習しているが、食について学ぶことで残菜0を開校以来達成してきており、最も有効な環境学習にも成り得ていると自負している。</p> <p>○環境保全学習：4年生の「総合的な学習」のもう一つの大単元は校区を流れる高瀬川を題材にした「高瀬川プロジェクト」である。水質調査や生態系の調査、環境保全活動に携わる方々との交流を行ってきており、高瀬川の歴史から地域の和菓子（京菓子）へと学習が発展していくように計画されている。</p>

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<p>○食育や環境保全学習を推進していくために、学校運営協議会にそれぞれ「地域教育支援部」や「環境教育支援部」を位置づけ、児童の活動に地域の方に参画していただくよう体制を整えている。また、それぞれの探究活動自体が本校の立地条件を生かしたものになっており、自然や文化的な環境を生かした活動となっている。</p>
--

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

○前述の通り、それぞれの活動に対して学校運営協議会が参画する仕組みを整えており、リアルタイムで外部の評価が頂ける仕組みを整えている。
今年度は特に5年生が自分たちで栽培した京野菜を使ったオリジナルレシピによる「京野菜試食会」を行ったが、5年生児童それぞれが探究した京野菜の魅力について、試食会の折にポスターセッションで披露することができ、その探究の深さと参会者からの質問への受け答えの良さが大変好評であった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

○環境、食育、人権と、児童が活動した内容についてはホームページや学級通信、学校便りで発信している。特に食育については日々の家庭での食にダイレクトに繋がるものであり、家庭からの反応も大変良い。素材について家族で考えたり、行事食から地域の伝統について話し合ったことも良く報告されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

○学校運営協議会 {地域教育支援部}, 「環境教育支援部」
○南部まち美化事務所（環境保全活動）
○高瀬川保勝会（環境保全活動）
○立命館大学大学院の視察受け入れ

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

○メールを通しての情報収集

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

○常に他者とのよりよい共生を考える契機となる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

○環境保全学習

- ・4年生では校区を流れる高瀬川の水質調査や生態系の調査，環境保全活動に携わる方々との交流を行う（高瀬川の歴史から地域の和菓子へと学習が発展していく）。
- ・全校を挙げての地域清掃活動「ココロエコロクリーンデー」を年2回実施する。
- ・3R運動を学校・児童会・PTA・地域の協賛として実施する。

○食育推進

- ・3年生「旬の野菜」，4年生「京菓子」，5年生「京野菜」，6年生「おもてなし」をテーマに探究学習を進める。
- ・日々の給食指導の充実を進め，残菜0に継続して取り組む。
- ・食育を推進することで，「食」の大切さに気づき，「食」を通して「人」の生き方や「環境」についても考えていく。

○人権教育

- ・違いを認め，お互いに大切にしていける社会の形成に向けて発達段階に応じて計画的に取り組んでいく。